

もりや仙一郎便り

県政報告 Vol.35

◆農業大学校について
 昨今、本県の新規就農者の内訳をみてみると、農業大学校出身者の占める割合が非常に高くなっている。同者の就農率は、全国平均39%に対し、本県は50%だ。卒業生は、全国の各種農業大会等で優秀賞を受賞するなど、地域のリーダーとなり活躍している。現在、県では農業大学の機能

子育て・農業・観光について質問 県議会9月定例会

さらなる支援・環境整備を要望



特別支援学校拡充へ

県方針「東南村山の北部などに整備」

9月24日、県議会9月定例会の本会議が開かれ、一般質問を行いました。内容は、喫緊の課題である農業大学の施設整備や、子育て支援のさらなる拡充、原発被害の補償問題などを訴えました。さらに、特別支援学校の施設を改めて要望し、「東南村山の北部などに整備する方針」との回答を頂きました。今号ではこれら質問内容の一部を抜粋し、ご紹介致します。

◆特別支援教育について

▼森谷仙一郎
 障がい児を持つ親御さんは、様々な心配を抱えながら生活している。県内の特別支援学校に通う児童・生徒は1073名おり、そのなかで自力通学をしている児童・生徒は少ない。大半が親御さんの



で寝ているという生徒もいる。寮の設備は改善が必要だ。さらに、園芸用ハウスは耐用年数を超えており、農機「農業大学校機能強化検討会議」で様々な角度から議論を行なっていくべきだ。



▼農林水産部長
 農業大学校については、農業関係者・学識経験者などで組織する「農業大学校機能強化検討会議」で様々な角度から議論を行なっていくべきだ。県ではそのような意見・議論を踏まえ、特に女子学生の増加などで課題となっている学生寮を、他県の農業大学校の先進的施設などを事例調査し、環境整備について早急に取り組みを行なっていくべきだ。

送迎に頼っているのが現状だ。県は通学圏内をおおむね1時間と設定しているが、昨年の豪雪時などでは「片道2時間を要した」との声もある。9月に長野県の須坂小学校を視察してきた。同学校では、既存の小学校に特別支援学校を併設することによって、東南村山地区は、現在ある村山特別支援学校に加え、北部に整備したいと考えている。整備は再編・整備検討委員会の報告を踏まえ、小・中学校等の空き教室・校舎を利用した分教室・分校の設置を速やかに調査・検討することが困難な児童・生徒

◆子育て推進部長

子育て推進部長
 子育て支援医療制度

援学校を併設し、健康児と障がいのある児童が一緒に学び、遊ぶ、教育現場を実現している。一緒に生活することで健康児は障がい児に対し、思いやりのある心を育み、障がい児は社会性を養っていた。私は既存の学校に特別支援学校を併設することによって、東南村山地区は、現在ある村山特別支援学校に加え、北部に整備したいと考えている。整備は再編・整備検討委員会の報告を踏まえ、小・中学校等の空き教室・校舎を利用した分教室・分校の設置を速やかに調査・検討することが困難な児童・生徒



▲須坂小学校の教室（プレイルーム）

生徒が多く、約6割が保護者の送迎になっている。そのなかで、同学校が設置されていない地域の方は遠距離通学となり、本人の健康面や、保護者の送迎に要する負担があることからその改善が大きな課題であると認識している。具体的には、特別支援学校が設置されていない西村山と西置賜地区に整備し、また、在籍児童生徒数が急増している東南村山地区は、一すべき」というもの。それに対する県の回答は「国の制度として全国一律の基準を要望していく」ということだ。この要望は提出されている。

- ### 一般質問内容
- 観光交流の推進について
 - (I) 日本一さくらんぼ祭りを契機とした観光誘客の展開について
 - (II) 観光分野における風評被害対策について
 - 今後の「つや姫」の作付拡大について
 - 農業大学校について
 - (I) 施設の環境整備について
 - (II) 実地研修の充実について
 - 子育て支援医療給付事業の充実について
 - 特別支援教育について
 - スポーツ競技力の向上対策について

もりや仙一郎事務所

ご意見を募集しております。FAX・メール・ブログでこうして欲しい! ココが問題! 改善して欲しい...など 頂けると幸いです。

☎023-651-5539 FAX023-651-5549
 〒994-0013 天童市老野森 3 丁目 4-17

もりや仙一郎 検索

新ホームページ <http://www.10016.jp/>
 facebook 友達登録をお願い致します。

QRコードでアクセス